

目 次

発刊のことば

凡例

総説	1
歴史と郷土	1
歴史と人生	5
市史編さんの方針	8
上巻の諸章	13
第一章 水戸の自然と人	17
第一節 地理的位置	17
自然的位置	17
人文的位置	18
人文的位置の変化	20
第二節 自然環境	21
一 地形	
地形区	21
低地の地形	21
台地の地形	25
丘陵地の地形	26
二 地質	
丘陵地の地質	27
台地の地質	32
低地の地質	36
地域の特徴	37
三 気候	

気温	40
降水量	41
風	43
季節の変化	44
第三節 自然環境と生活	46
一 生活と地形	
集落の発達と地形	46
交通の発達と地形	49
農耕生活と地形	51
二 生活と気候	
居住と気候	53
農耕と気候	55
人体と気候	56
三 自然災害と対策	
江戸時代以前の自然災害	58
江戸時代の自然災害	59
明治以降の自然災害と対策	60
第四節 水戸の発展と自然環境	66
現代の水戸と自然環境	66
都市計画と自然環境	67
第二章 郷土の黎明	69
第一節 狩猟と採集の生活	70
旧石器時代と十萬原遺跡	70
狩猟と採集	73
八幡町出土の土器	77
谷田貝塚	80

常陸国風土記にあらわれた大串貝塚	82
縄文式文化の発展	84
吉田貝塚	85
全隈町の集石址	88
谷田遺跡	90
渡里町アラヤ遺跡	95
第二節 那珂川流域の原始農耕文化	97
弥生式文化の起こり	97
農耕生活の発達と柳河遺跡	101
弥生式時代の終末と部落の発生	108
第三章 古墳文化と那珂国造	111
第一節 愛宕山古墳と那珂国造	115
水戸地方の部落的小国家の消滅	115
古墳にみる豪族の面影	116
那珂国造の成立	121
六世紀の庶民生活	127
第二節 水戸地方の古代社会の発達	131
田谷町富士山古墳	132
石室の壁画	134
地下の古墳	136
素掘りの古墳	140
横穴の古墳	141
国分期の遺跡	144
那珂国造の雄飛	153
第四章 律令制下の水戸地方	161
第一節 那珂郡の諸郷	162

「那賀」の郡名	162
那賀郡の成立	163
郡内の諸郷	166
郡衙	170
郡領宇治部直	175
第二節 律令諸制度と郷土の生活	184
班田収授制・条里制	185
戸籍・計帳	187
租・庸・調	189
軍団・衛士・防人	192
駅制、河内駅家	194
律令制の破綻	202
第三節 風土記・万葉集と郷土	205
神社と村	205
曝井	206
防人の歌	209
哺時臥山の説話	210
白鳥	213
第四節 渡里付近の奈良時代の遺跡	215
徳輪寺の遺址	215
木葉下の窯址	226
田谷の廃寺址	233
第五章 律令制の衰退と大掾氏の発展	239
第一節 律令諸制度の改廃と那珂郡の分裂	241
常陸の国勢	241
律令制度の改廃	244

那珂郡領家の衰微	250
吉田郡の成立	252
第二節 吉田神社と吉美侯氏	258
名神大社	258
祭神	262
蝦夷平定と吉田神	265
宮司吉美侯氏	267
吉田神社の崇敬と式年遷宮	272
第三節 吉田社領と薬王院	279
律令機構による神社経済	279
社領の成立と発展	281
祝・田所大舎人氏	284
薬王院	286
第四節 平将門の乱と大掾氏の水戸地方進出	291
桓武平氏の坂東進出	291
平将門の乱	293
蒜間の江の辺り	297
常陸大掾氏の発展	298
三個の経筒	300
一守長者の伝説	303
源姓佐竹氏と藤姓那珂氏	304
第六章 武家社会の展開と水戸地方	307
第一節 鎌倉幕府と水戸地方の諸氏	308
源頼朝の覇業と常陸の形勢	308
吉田三頭の発展	310
常陸大掾馬場資幹の登場	314

馬場資幹の本拠	318
馬場資幹の墓所	323
国井氏と那珂氏	326
鎌倉幕府と常陸国衙	329
伊勢二所大神宮の役夫工米	332
幕府法を準用した小槻氏	336
第二節 吉田神社に奉仕の人々	339
在庁の官人と吉田社	340
郷地頭の職務と勢力	343
領家小槻家の預所	348
大祝家の大舎人氏	351
神主家の大舎人氏	353
権祝家の大舎人氏	354
田所成恒の逸話	356
田所長恒の逸話	358
吉田と京都を結ぶ定使	360
第三節 吉田社領の郷村	362
吉田社領の田数	362
酒戸・吉沼郷の人々	365
吉田郡の諸郷と吉田神社	369
郷から村へ	371
武熊村の形成	376
吉田神社の祭礼と郷村	380
月並の神事	384
末社と祭礼	386
新しい祭会と村人	388

鎌倉時代以降の吉田社領	390
第四節 水戸地方の旧仏教と新仏教	391
天台と真言	392
真宗・唯円房	393
日蓮宗妙徳寺	397
第五節 田谷町出土の古銭	398
ごぼう畑の古銭	398
正宗寺の出土銭・水戸銭	403
第七章 南北朝内乱と大掾氏の衰退	407
第一節 常陸における南北両朝の抗争	408
小田治久南朝方となる	408
佐竹氏の発展	409
大掾氏の北朝服属	413
瓜連落城	415
戦線南下す	418
青柳の戦	420
藤氏一揆	421
南朝方の没落	422
第二節 大掾氏の衰退	426
難台城の戦	426
江戸氏の河和田進出	428
上杉禅秀の乱と大掾氏	430
水戸より敗退す	433
第八章 江戸氏の水戸地方支配	435
第一節 江戸通房の水戸占拠	437
江戸通房水戸に入る	437

水戸城奪取の年代と事情	438
河和田から水戸へ	440
江戸通房と佐竹実定	446
通房の子女	448
第二節 江戸氏の発展	451
江戸軍記	451
佐竹の乱と江戸通雅	455
江戸氏の佐竹領進出	459
一家同位の誓い	463
古河公方と江戸氏	467
天文の戦	469
南郡への対策	472
第三節 江戸重通	478
永禄期の常陸	478
江戸重通の嗣立	481
南郡進出	483
天正前期の常陸	485
府中合戦	486
神生の乱	490
第四節 領国と家臣団	496
水戸と水戸城	496
領国の範囲	500
春秋一門	502
加倉井氏	504
外岡氏その他	507
常澄地域の諸氏	510

涸沼地域の諸氏	514
第九章 水戸付近の城と館	519
第一節 城と館	519
第二節 吉田城址	527
概観	527
I 区域	527
II 区域	530
III 区域	532
IV 区域	532
V 区域	534
戦国築城の特色	535
結論	539
第三節 河和田城址	542
概観	542
I 区域	546
II 区域	547
III 区域	549
IV 区域	549
V 区域	551
VI 区域	553
VII 区域	554
復元的考察	555
戦国後期の特色	557
第四節 加倉井館址	559
概観	559
遺構の説明	559

結論	565
第五節 渡里の長者屋敷	567
概観	567
I 区域	568
II 区域	569
腰郭	572
III 区域	573
IV 区域	574
V 区域	575
抜穴	576
復元的考察	576
古伝	579
戦国築城の特色	580
古代末期・中世初期の館の特色	582
結論	584
第十章 江戸氏時代の文化	587
第一節 文化の潮流と水戸地方	588
地域文化の中心	588
江戸真純の歌会	592
熊野信仰と富士信仰	594
第二節 神社の崇敬	603
起請文の神々	603
吉田神社と吉田家	605
諸社の建立	608
第三節 仏教諸宗の発展（一）	613
天台宗	613

真言宗	616
絹衣争論	622
臨濟宗	625
曹洞宗	628
第四節 仏教諸宗の発展（二）	632
浄土宗	632
真宗	635
日蓮宗	638
時宗	641
仏教発展の意義	643
第十一章 佐竹氏の領国統一	647
第一節 佐竹氏の水戸進出	649
義宣嗣立と天下統一の形勢	649
小田原参陣	652
佐竹領の安堵	656
水戸城攻略	661
南郡三十三館の滅亡	664
江戸重通の末流	666
第二節 豊臣政権下の佐竹氏	670
奥州陣	670
唐入の動員令	673
名護屋在陣	675
国元の統制	680
伏見普請役	684
石田三成の佐竹領検地	688
第三節 府城の建設と商工業の振興	690

文禄二年以前の府城建設	690
文禄二年以後の城郭修築	692
家臣団の屋敷割	698
大和田重清の城下屋敷	702
城下の町と市	706
商人統制	709
職人統制	711
年貢の換金と金商人	712
金山経営	714
那珂川の舟運	718
第四節 検地と村落	722
太閤検地	722
太閤検地の結果	726
慶長の佐竹検地	733
検地帳にあらわれた村落	738
第五節 知行制と家臣団	753
秀吉の知行制	753
太閤蔵入地	754
無役高	757
加増高	758
佐竹義宣の知行割	760
家臣知行地の分布	763
東義久の知行地	767
義宣蔵入地	768
知行政策	772
立山	778

家臣団の編制	780
第十二章 文化の新気運と郷土の生活	789
第一節 文化の新気運	789
上方文化の影響	789
外国文化との接触	791
水戸中心の文化圏	796
第二節 郷土の生活	802
生活の向上	802
文芸・茶湯・芸能	803
風俗さまざま	809
第十三章 佐竹氏の秋田移封	815
第一節 関ヶ原役と佐竹氏	816
秀吉死後の争い	816
義宣、三成を救う	818
陸奥赤館出陣	820
密謀	826
戦機去る	830
第二節 国替と郷土の情勢	834
戦後の処分	834
国替決定	838
常陸の情勢	843
車丹波一揆	848
佐竹氏秋田へ去る	853
秋田のハタハタ	861
卷末付録	
一 参考史料	

一 年表

あとがき

一 上巻執筆一覧

一 市史編さん委員会委員

写真・図版

口絵

- 一 谷田遺跡出土石器
- 二 水戸八幡宮本殿
- 三 空から見た吉田台地

水戸市全図

総説

- 一 那珂川と水戸の台地 2
- 二 「新編常陸国誌」の草稿 9

水戸市全図

第一章 水戸市の自然文化

- 一 水戸の地形 23
- 二 自然堤防州 24
- 三 水戸の断面図 26
- 四 水戸周辺の模式地質断面図 I 30
- 五 水戸周辺の地質図 31
- 六 水戸周辺の模式地質断面図 II 32
- 七 水戸気候図 43
- 八 備前堀 52
- 九 屋敷林と生垣 54
- 十 水塚 65

第二章 郷土の黎明

- 一 十万原出土石器実測図 72
- 二 縄文式土器拓影 76
- 三 那珂川流域田戸遺跡分布図 79
- 四 谷田貝塚全景 80

五	谷田貝塚出土土器	81
六	吉田貝塚大木8A式土器	85
七	吉田貝塚出土縄文式土器および石器	86
八	全隈集石址全景	89
九	谷田遺跡出土遺物	92
十	アラヤ遺跡全景および住居址	93
十一	アラヤ遺跡出土土器および拓影	94
十二	富士山古墳出土弥生式土器	99
十三	那珂川流域出土弥生式土器	102
十四	十王台式土器	103
十五	十王台式土器実測図	104
十六	柳河小学校庭弥生式堅穴址	104
十七	水戸付近出土紡錘車	105
十八	石鎌	107
十九	前野町式土器（壺）および和泉式土器（高坏）	108
第三章 古墳文化と那珂国造		
一	水戸付近古墳分布図	113
二	長岡住居址全景	119
三	長岡住居址実測図	120
四	愛宕山古墳・姫塚古墳実測図（1）・（2）	122・123
五	柳河土師式住居址全景および実測図	128
六	富士山古墳埴輪円筒列および埴輪円筒・家	133
七	吉田古墳壁画	135
八	堀町第2号古墳出土国分式土器	136
九	水戸付近古墳内部構造	137
十	堀町第6号古墳出土遺物	138

十一	古墳石室実測図	139
十二	堀町第4号古墳内部構造	140
十三	権現山横穴古墳全景および壁画拓影	142
十四	银杏町出土蔵骨器	143
十五	阿川出土鉄製鎌・砥石および坏	145
十六	大串・殿山土師式住居址出土土器実測図	146
十七	東町土師式堅穴址全景および実測図	148
十八	同 出土遺物実測図	149
十九	同 出土るつぼ	150
二十	那珂川流域出土土師器実測図	151
二一	同 須恵器・蔵骨器実測図	152

第四章 律令制下の水戸地方

一	那賀郡内の郷名	167
二	「那珂郡廿二郷図」	169
三	河和田上空より渡里方面を望む	173
四	安貞二年の「酒戸吉沼田地検注帳案」	186
五	正倉院の調布墨書	191
六	写経所の解文	196
七	「常陸国風土記」	198
八	曝井碑	208
九	渡里付近要図	216
十	徳輪寺付近実測図	217
十一	徳輪寺遺跡出土瓦	219
十二	徳輪寺および長者山付近出土土器実測図	220
十三	木葉下窯址	227

十四	木葉下窯址出土遺物実測図 (1)・(2)・(3)・(4)・(5)	228～232
十五	田谷廃寺址実測図	234
十六	田谷廃寺址出土瓦	235
第五章 律令制度の衰退と大掾氏の発展		
一	延喜年間の常陸国図	255
二	常陸国廿八座の神社	260
三	寛治四年の宣旨	266
四	正倉院の調布墨書	269
五	吉田神社の台地	273
六	小槻隆職の告文	274
七	吉田神社境内の現況	276
八	吉田薬王院薬師堂と薬師如来	287
九	佐竹寺	289
十	将門の乱 要図 (1)・(2)	295・296
十一	長承二年の経筒と銘文拓影	302
第六章 武家社会の展開と水戸地方		
一	吉田三頭勢力想定図	315
二	大掾氏歴代の墓所	323
三	佐谷郷の風景	326
四	「弘安二年作田惣勘文」	327
五	在庁官人の連署	330
六	吉田神社本殿	340
七	預所の署判	347
八	田所氏の系図	356
九	伝唯円房の道場池址	395

十 妙徳寺	397
十一 田谷町出土の古銭	401

第七章 南北朝内乱と大掾氏の衰退

一 瓜連城址	414
二 那珂西城址	416
三 小田城址	419
四 府中城址から筑波山を望む	427
五 下江戸館址	429

第八章 江戸氏の水戸地方支配

一 河和田・水戸・吉田関係図	442
二 水戸城址から吉田城址を望む	443
三 空から見た河和田城址	445
四 「和光院過去帳」	447
五 「妙徳寺過去帳」	470
六 江戸忠通の書状	476
七 江戸重通の花押	481
八 「和光院過去帳」	489
九 江戸重通の書状	490
十 妙徳寺棟札	505
十一 外岡氏の館址	508
十二 空から見た涸沼川流域	514
十三 谷田部重種の書状	516

第九章 水戸付近の城と館

一 全隈城址と神生堀	520
二 見川城址実測図	522
三 見川城址	523

四	水戸市域の城館分布図	526
五	吉田城址遠望	529
六	吉田城址実測図	531
七	吉田城の遺構	538
八	河和田城の遺構	544
九	河和田城址実測図	545
十	加倉井館(1)・(2)	560・562
十一	加倉井館址実測図	566
十二	長者屋敷遠望	568
十三	長者屋敷実測図	571
十四	長者屋敷の遺構	583

第十章 江戸氏時代の文化

一	牛玉宝印	595
二	坂東三十三番札所と巡礼札	596
三	藤内神社本殿	608
四	手子后神社	610
五	素鷲神社	611
六	吉田薬王院山門の額	615
七	「願行流血脈」	616
八	「六地藏寺過去帳」と五山版妙法蓮華経	619
九	和光院の印信	620
十	「夢窓疎石頂相」	626
十一	清音寺の山門	627
十二	最乗寺の塔頭大慈院塔司職招請状	630
十三	「浄土頓教一乗戒血脈」	634
十四	報仏寺の阿弥陀像台座の銘	637

十五	日高・日朝の曼陀羅	640
十六	他阿上人筆の名号	642
第十一章 佐竹氏の領国統一		
一	佐竹義重の書状	649
二	義重・義宣父子の連署花押	650
三	「和光院過去帳」	664
四	水戸城の面影	685
五	義宣の花押と印章	686
六	浄光寺郭址から二の丸址をのぞむ	694
七	水戸城大手橋の擬宝珠と銘	697
八	佐竹氏時代の金山	715
九	那珂川の渡し場	720
十	「上河内村検地帳」	725
十一	「真壁郡麦田検地帳」	733
十二	「木葉下村検地帳」	735
十三	佐竹領検地帳の内容	737
十四	太閤蔵入地の分布	756
十五	佐竹領知行割の概況	766
十六	水戸城を中心とする義宣蔵入地の分布	771
十七	佐竹領内の支城と蔵入地の配置	783
第十二章 文化の新気運と郷土の生活		
一	東山時代うてな硯箱	793
二	水戸八幡宮本殿	800
三	応安新式	805
四	茶の湯道具	806
五	時代能面	808

第十三章 佐竹氏の秋田移封

一	関東・奥羽の大名配置	821
二	伝佐竹義宣の甲冑	823
三	東義久の花押	835
四	徳川奉行衆の定書	847
五	車城址と車丹波の署判	849
六	土崎湊城下の古図	854
七	鋳物師根本氏の由緒書	858
八	「常陸御用日記」	860

表

総説

第一章 水戸市の自然文化

一	水戸付近の層序表	28
二	見和層産貝化石表	33
三	田中層産貝化石表	35

第二章 郷土の黎明

一	無土器編年表	71
二	縄文式土器編年表	75
三	弥生式土器及び土師器編年表	100

第三章 古墳文化と那珂国造

一	仁徳天皇陵等と愛宕山古墳の比較	125
---	-----------------------	-----

第四章 律令制下の水戸地方

第五章 律令制の衰退と大掾氏の発展

一	常陸国の駅家	249
二	桓武平氏略系図	293
三	常陸大掾略系図	300

第六章 武家社会の展開と水戸地方

一	石川家幹略系図	311
二	吉田広幹略系図	312
三	馬場資幹略系図	313
四	馬場大掾略系図	318
五	「建保二年造営用途結解」	342
六	小槻家預所一覽	349
七	大舎人氏分流略系図	351
八	大祝重恒讓渡田畠	353
九	権祝兼田所相伝系図	355
十	吉田社領郷村田数	363
十一	酒戸・吉沼両郷田数	365
十二	安貞二年酒戸・吉沼名主別所有地	366
十三	垣安の名田	367
十四	吉田郡内郷村の田数	369
十五	恒富十ヵ村の公田	372
十六	塩崎村田数并年貢	374
十七	石河村田数并年貢	375
十八	大葉村の田数	376
十九	武熊村田数并年貢	377
二十	武熊村の田数	378
二一	武熊村の田在家	379
二二	吉田社祭会と祭会料	381

二三	室町時代吉田社神事一覧	382・383
二四	田谷町出土銭一覧	402
二五	田谷町出土銭時代別分類	403
二六	正宗寺出上銭一覧	404
第七章 南北朝内乱と大掾氏の衰退		
第八章 江戸氏の水戸地方支配		
一	江戸氏世系の問題点	448
二	佐竹の乱における江戸氏の佐竹領侵害	461
三	佐竹の乱における諸氏の佐竹領侵害	461
四	神生の乱関係系図	492
第九章 水戸付近の城と館		
一	水戸市域の城館址一覧	524・525
第十章 江戸氏時代の文化		
一	江戸氏時代およびそれ以前の水戸地域の社寺一覧	590
二	起請文に記載された神々	605
三	時代別水戸地方諸宗寺院建立一覧	645
第十一章 佐竹氏の領国統一		
一	豊臣秀吉へ参礼した佐竹・宇都宮氏と麾下の諸将	654
二	水戸落城時討死江戸氏家臣	662
三	天正末期の江戸氏支城砦	663
四	結城（松平）氏に仕えた江戸氏とその旧臣	668
五	佐竹氏の知行宛行	670
六	文禄二年豊臣氏舟奉行より佐竹氏に 対する軍船の貸与と割付	678
七	文禄二年佐竹家臣団の朝鮮出陣	678
八	大和田重清の水戸城普請日誌	692

九	大和田重清の水戸城夜番日誌	696
十	「大和田重清日記」に現われた佐竹氏時代の水戸城下町	700
十一	大和田重清の水戸城下屋敷普請日誌	703・704・705
十二	岩城領検地高目録の集計	732
十三	岩城領小物成目録の集計	732
十四	上河内・木葉下両村の農民土地所持面積分類	742
十五	上河内村農民の登録所持面積	745
十六	上河内村・木葉下村屋敷登録人田畑所持面積	748
十七	文禄四年豊臣秀吉の佐竹領知行割一覧	758
十八	自天正十八年至慶長六年佐竹氏の知行宛行状一覧	760
十九	知行宛行状の二形式	761
二十	文禄四年佐竹氏の知行割と家臣団編成	762
二一	郡別に見た佐竹氏の知行割一覧	765
二二	佐竹義宣蔵入地の管理状況	770
二三	佐竹氏知行宛行の相給形態	774
二四	分散知行形態	776
二五	佐竹領内の支城と城将	782
第十二章 文化の新気運と郷土の生活		
一	文禄二年大和田重清長崎買物一覧	795
二	佐竹氏時代の社寺移動一覧	798
三	「大和田重清日記」に見える物価一覧	813
第十三章 佐竹氏の秋田移封		